



自問教育の会

EOSA Education of Self-Asking

発行日：2020（令和2）年8月6日 No.13

発行者：自問教育の会（会長：小林慎一）

編集：自問教育の会事務局（丸山 白澤 吉川 牧 北村 新津 松島 市川 宮澤 井口 片岡）

事務局：〒399-8601 長野県北安曇郡池田町池田3210-1 池田町立高瀬中学校内 丸山 博

連絡先：Tel0261-62-2171 Fax0261-62-9904

URL：<http://jimon.3zoku.com/>

問い合わせ：<http://jimon.3zoku.com/php/sformmail.html>

令和2年度の全国自問の会は中止となりました。

コロナ禍の中、各校では対応に追われながらの日々をお過ごしのことと思います。現在夏休みに入っておられる学校、または、夏休みの大幅短縮により、子どもの登校が続いている学校もおありかと思えます。梅雨が明け、酷暑の日々が続く8月となりそうですが、どうぞご自愛いただき、この夏を乗り切っていきたいものです。

さて、本年度の全国自問教育の会は、全国各地の状況を鑑み中止の運びとさせていただきます。会場校として引き受けてくださっていた南牧村立南牧南小学校の皆様を始めとして、この会の参加を楽しみにして下さっている先生方

と一堂に会して語り合えないことを事務局としても大変残念に感じているところであります。全国各地の先生方におかれましては、この状況に屈することなく、教育の本道である自問活動の歩みを進めていただき、再び顔を合わせて学び合う日を待ちたいところです。

全国の先生方のつながりを保っていくために、事務局のあり方も現在模索しているところであります。企画を考え提案して参りますので、提案させていただいた時には、是非、ふるってご参加いただき、情報交換できればと思います。

第1回オンライン学習会8月22日に開催決定！

WEB会議システムZOOMを活用し、第1回オンライン学習会を開催します。およその内容は、以下の通りです。

①長野県南牧村立南牧南小学校の実践報告

報告者：新津由紀先生

②お悩み相談室

自問清掃に関する相談に事務局員が丁寧にお答えします。

本会としては、初めての試みであり、どのような内容になるか未知数なところもありますが、全国で実践されている方と気軽に意見交換できる

場がこのような形で設定できることもこの会にとって一歩前進であると感じています。まずは気軽にご参加ください。詳細は、以前配信いたしましたチラシをご覧ください。（今回のメールにも添付しておきました。）

相談事がないが、自問清掃のことについて知りたい…という方も遠慮なくご参加ください。

今後も様々なテーマを設けて、学習会を計画できたらと考えております。ご要望などがございましたら、遠慮なく事務局までご意見をお寄せください。

第28回全国自問教育の会 報告



会場：長野県立科町立立科小学校

研究テーマ

「体験と振り返りを往還しながら、主体的に道德性を高めていく子どもの育成」

令和元年度 第28回全国自問教育の会が、長野県立科町立立科小学校を会場として、11月29日（金）11月30日（土）の2日間、開催されました。全国各地より55名の参加者があり、清掃参観、授業研究会、実践交流会を通して、議論も深まった2日間となりました。

【1日目】

- 授業参観（6年2組）
道徳 主題名「自分の成長」
指導者 平田治先生
授業者 北村和行先生
- 清掃参観
- 開会行事
- 授業研究会
- 実践交流会Ⅰ
「自問に向かう生徒の姿から学ぶ
～今年度の取り組みより～」
長野県松本市立女鳥羽中学校 楠田美由紀先生
- 実践情報交換
- 情報交換会（佐久平駅前にて）

【2日目】

- 講演
「自問清掃（学校清掃）と企業清掃の相違」
フリーライター 山本健治先生
- 実践交流会Ⅱ
「自問清掃を核とした学級経営」
静岡県袋井市立浅羽北小学校 太田鉄哉先生
「自問清掃への取組と原点帰帰へ向けての課題」
宮崎県宮崎市立宮崎西中学校 阿部直人先生
「久米中学校 自問清掃の取り組み」
岡山県津山市立久米中学校 藤原麦斗先生
- 実践情報交換
- まとめ・講評
自問教育の会理事 橋口有康先生
- 実践交流会Ⅲ
「主体的な生き方の根本となる自問清掃
ーチャレンジ精神と和顔愛語を常に胸にー」
栃木県元河内町教育長 五月女勝正先生
「うちのクラスの自問清掃が危ない」
長野県北相木村立北相木小学校 龍野直人先生
「ゼロからのスタート」
長野県南牧村立南牧南小学校 新津由紀先生
- 実践情報交換
- まとめ・講評
自問教育の会理事 平田治先生



都道府県間の移動も制限され、一堂に会しての研修会はしばらく開催することが難しい状況となりましたが、この状況にも柔軟に対応しなくてはならない時こそ自問の心が大切であることを、日々子どもと向き合う中で痛感しているところです。自らに問い、今自分は何を志して子どもに向かうべきなのか、常に問い続ける教師でありたいと思います。教育の本質とは何か…を問い続け、また、皆さんと語り合える日を楽しみにしております。

参加者の声

今回参加を決めた理由ですが、本校は5、6年ほど前に自問清掃を始めました。2年ほど懸命に研修を行ったのですが、毎年教員の入れ替わりがあったり、導入がうまくいかなかったりで、現在、形のみが残っている状態です。自問ノートのみ誇れる取り組みですが、学校内でも温度差が大きくなっています。

今回この会の参加をきっかけに学んだことを本気で実践していく勇気とパワー、熱い気持ちをいただきました。

(三重県中学校教諭)

毎回のことながら、大変充実した2日間でした。会場は少々遠いと思いましたが、苦勞してでも参加できて良かったです。

今年も深い深い学びをさせていただき、まさに、私にとっての自問の楽しい時間でした。

この会に参加させていただくことで、しおれかけていた私の苗が、また栄養をいただいて、元気になってきます。しっかり花をさかせて、幸せを蒔くことができるように努力します。来年もまた、お会いできるといいです。

(山口県小中学校教諭)

自問清掃は奥が深く、子どもたちだけでなく、私自身にとっても生涯のテーマになるのではないかと感じています。私は養護教諭なので、直接子どもたちの自問ノートにふれることはできませんが、そうじを通してその日、その時の気持ちと向き合うことは、とても大切でありがたいことと思います。最初は、何を書いたらよいかわからない子もいるかもしれませんが、時間をかけて変わっていく姿を見られることも、教師自身も学ばせてもらえるものだと思います。

(長野県小学校養護教諭)



学ぼう！自問清掃



片岡 聡矢 (長野県富士見町立境小学校)

清掃指導の時間の子どもたちの姿を目の前にし、自分の指導方法にも疑問を持つことが少なからずあると思います。

昨年度の2月に、若手の先生を中心に少人数で自問清掃の学習会を行いました。自問清掃のついでの話をする前に、先生方の課題や悩みについて書いてもらって、お一人ずつお話しいただきました。概要を紹介したいと思いますが、この会報をお読みの方の中には、同じような思いを持っておられる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

《S先生の課題と悩み》

自問清掃に出会ったのは小学校の時。全校で自問清掃に取り組んでいる学校でした。心をみがくための指導を受けてきて、そのそうじが自分の中の理想になっています。心が育つ感覚が自分の中にもあります。中学校の時には、一番汚い体育館

のトイレを選んで自らそうじもしていました。

教師になり、自問清掃に取り組みたいが、教師の立場からどう指導するのか？どう始めるのか？ということが課題になっています。指示や注意をしなくなる自分。子どもを見ているだけでも違うと思うのですが、見守ることも出来ない自分がいます。

《1先生の課題と悩み》

2年目の5年6年で自問清掃に取り組みました。今は、2年生の子どもたちと取り組んでいます。自分のやり方はどうなのか？と感じています。自分磨きノートのあり方が気になっています。自分を見つめるノートなのに、教師のために書いているノートになっているのではないかと感じてしまいます。2年生にとってノートはどのようなものなのだろうと思います。あそんでいる子、しゃ

べっている子をどうしても許せない自分がいます。見てしまい、目で注意している自分がいます。《U先生のそうじへの思い》

自問清掃というものを聞いて育ってきました。今の学校は、賑やかなそうじです。一人ひとり仕事は仕事をこなすためにやっていて、サボっている子どももいません。そうじの姿を見ていると、自己追求力というか目指すものを感じません。自分自身ももっと向き合っていて欲しいなあと感じています。それは、そうじのやり方なのかなあ？とも思っています。

《O先生のそうじへの熱い思い》

現在小学生を担任しているが、それ以前は中学校で鍵山さんのそうじに取り組んできた。やらされるそうじ→自分からやるそうじを目指して、指導をしてきたし、中学生に伝えると喜んでやる姿がありました。小学校でも便教会をやるのですが、毎日となるとどうしてもマンネリ化してきてしまいます。教えたことはやるけれど、その先に気づきが生まれてこないように感じています。係活

動や学習についても、言われたことはやるけれど、それ以上になりません。そうじをサボっているわけではないのだけれど…。

この学習会の冒頭で、このような話が提供されました。これらのお話の中には、いくつも大切なキーワードが隠されていますし、その課題や悩みを乗り越えていくために、どのように考えていかななくてはならないのか、というポイントもいくつもあるように思います。ただ、これは、教えることが難しい部分があります。教師自身も追究者となり、自己の実践を振り返りながら歩んでいくしかないように思います。

このあと、私の学んできたことや実践についてのお話を1時間ほどさせていただきました。自分の実践を振り返るきっかけとなっていることを願います。私の学級の様子も参観いただく予定でしたが、これは、コロナのため延期となりました。この学習会は、実践している学級の清掃だけでなく、学習についても参観し合い学んでいます。興味のある方は、お気軽にご相談ください。

事務局長の独り言

長野県池田町立高瀬中学校 丸山 博

長野県には「日報」というその日の予定や連絡事項が書かれた文書が存在します。多くの場合、教頭が作成し、時には教頭からのメッセージが書かれることもあります。最近は教頭の働き方改革の一環で廃止される学校が増えてきましたが、他県ではどうなのでしょう。

私が勤務する高瀬中ではまだ日報が残っていました。教頭として発信できる数少ないチャンスとして活用させていただいています。毎日、空いたスペースに気の向くままに書かせてもらっていますが、その中のいくつかを紹介して「事務局長の独り言」に代えたいと思います。

7月2日(木)の日報より

職員室掃除に来てくれているAHさん。掃除中にAHさんが掃除しているところを「ごめん

なさい」と通らせてもらうときに、いつもいつもこちらをしっかりと見て会釈をしてくれませす。しかも、必ず微笑みながらの会釈です。5校時の内科検診のときに廊下で出会った際もそうでした。挨拶をする時に、相手をしっかりと見て微笑みながらできる人は、そうそういませんよ。素敵！

7月3日(金)の日報より

○「やる気」を育てる

教育専門家の小川大介さんは「熱心なほど、子どもを見なくなる」と述べています。子どものために、もっとこうしてあげよう、もっとこんな〇〇を用意してあげよう・・・と頑張るほどに、子どもそのものが見えなくなって、逆に子どもはどんどんやる気を失っていく・・・という危険性を表現しています。小川さんは、そうならないための三原則として「認める」「見

守る」「待つ」を提唱しています。それでは、「認める」とは？「褒める」との違いは？先生方と語り合いたいテーマです。

7月10日(金)の日報より

2年2組の授業を参観しに行き気づいた交換の必要な蛍光灯・・・ようやく交換しに行きました。しかし、経年劣化のため器具自体がダメで、結果的にはうまくいかず・・・しょぼくられて教室を去ろうとしていました。ちょうどその時に美術の授業から戻ってきた生徒たちとすれ違うことになりました。蛍光管と脚立を持っている私を見て、MKさんが「ありがとうございます。」と声をかけてくれました。どうしたらこんなに素敵な言葉が出てくる生徒に育つのでしょうか。MKさんは、自分たちの教室の蛍光管を交換してくれたことを私の様子から推測し、それに対して感謝の思いを伝えようと考え行動に移したわけですね。しかも、ほとんどの生徒は無言ですれ違っていたのです。その中で、自分一人だけが「ありがとうございます」

と発するには、よほどの強い意志がなければ難しいと思うのです。つまり、周りに流されない強さ。50歳を過ぎた今の私でもそんな心の強さは持ち得ていません。心磨きのため、掃除を続けたいと思います。

7月27日(月)の日報より

朝、PC室の鍵を借り、返却しにきた3-1MKさん。私に、鍵を手渡そうとしたその瞬間、鍵の向きをくると180°回転して手渡してくれました。鍵ですから、もちろん刃物ではないのです。でも、MKさんは向きを気にして渡してくれたのです。このことは、MKさんが自と他との関係性において、他に対する敬意の念を持ち得ている表れではないかと思うのです。日頃のその立ち居振る舞いは、ぎこちなさを感じることもあるMKさんですが、表面的な立ち居振る舞いがスムーズかどうかなどということはどうでも良く、真心こそ大切であるということを改めて感じさせてくれました。

《編集後記》

昨年度末、休校措置などの非常事態の中、卒業生を送り出しました。2月28日、突如休校が決定し、大変慌ただしい1日を過ごしました。3月の残りの日々を、卒業に向けて大切に過ごそうと思っていた矢先の出来事でした。子どもたちもショックを隠せない様子でした。28日は、ゆっくり子どもと向き合う時間もなく、休校の準備に追われる時間を過ごしていました。教室を空けなくてはならない時間もありました。

しばらく教室を空けて戻ると、一人の女の子が教室の外にいて、「まだ入らないで…」と言ってきます。しばらく廊下で待ち、合図があり教室の中に入りました。花道ができていて、急遽こしらえたレイを首にかけてくれ、拍手と感謝の言葉。黒板には、びっしりと子どもたちのメッセージが書かれていました。このような出来事は、多くの教室でも起こることなのだと思いますが、緊急事態だからこそうこういうことを考えて行動した子どもたちに感謝と感動を覚えた瞬間でした。子どもたちの机やロッカーは、片付けの途中でぐちゃぐちゃ。まったく整っていないこの教室がとても愛おしいものに思えました。

卒業式当日の朝の歌練習。約半月ぶりに登校してきた子どもたちの歌う姿を見て、涙が溢れてくる自分がいました。それでも、立派に成長し、自分の足でしっかりと立っている子どもたちを見て、この子達と2年間過ごしてきたのだと胸をなで下ろすような気持ちで子どもたちの巣立つ背中を見つめていました。

きれいにすることを教えるそうじではない。自己を律し、他者を思いやる豊かな心を育むための自問清掃である事を胸に、新任地に赴くのでした。

(文責：長野県富士見町立境小学校 片岡聡矢)